
国土施策創発調査 事業報告書

～ 従来型温泉地の再生調査報告書 ～

平成 17 年 3 月 25 日

群馬県伊香保町（伊香保温泉）

目 次

本編 ～伊香保温泉再生に向けた目標と施策の方向～ ----- 1

- 1章 伊香保温泉の現状と課題 2
- 2章 伊香保温泉の今後の目標像 4
- 3章 伊香保温泉の真の再生に向けて 7
- 4章 伊香保温泉再生に向けた施策の方向 8

温泉地再生編 ～伊香保温泉の魅力創出に向けた施策～ ----- 10

編全体像 11

- 1章 温泉の基盤環境づくり 12
- 2章 伊香保温泉の魅力づくり 25
- 3章 伊香保温泉の再生に向けた推進体制づくり 35
- [参考] 関東周辺の消費者から見た温泉地の現状と課題 36

(国土交通省インターネットモニターアンケート抜粋)

景観編 ～伊香保町景観計画及び中心市街地地区景観ガイドライン～ ---- 39

- 1章 伊香保町の概況 ----- 41
- 2章 地域景観形成の課題と目標 49
- 3章 伊香保町都市景観ガイドライン 59
- 4章 温泉市街地ゾーンの景観ガイドライン 66
- 5章 景観形成の推進方策 87

自然活用編 ～伊香保森林公園地区整備方針検討調査～ ----- 90

- 1章 伊香保森林公園地区の利用状況の分析 91
- 2章 伊香保森林公園地区の利用促進方策の検討 97
- 3章 今後の課題 104

広域連携編 ～広域連携による誘客の方策～ ----- 105

- 1章 広域連携の考え方 106
- 2章 周辺地域との連携 109
- 3章 県・上州地域における連携 113
- 4章 市場となる都市との連携 114

資料編 ----- 115

- 伊香保温泉街の活性化に関するホテル・旅館調査報告書 116
- 会議支援資料 127
- 会議支援資料 133
- 自然エネルギーを利用した源泉加熱方式の検討書 136
- バスターミナル広場周辺概要図 146

伊香保再生戦略委員会名簿及び日程 ----- 150

はじめに

伊香保温泉街は、榛名山麓の標高600mから800mの中腹に位置し、裾野に向かって、住宅街、田園地帯となっています。また水沢地区は、水沢寺の門前町として開けて参りました。

伊香保は、古くは万葉集にも詠われ、伊香保温泉を代表する石段街は、戦国時代末期の1576年に築造された日本初の温泉都市計画の温泉街で、安土桃山、江戸、明治、大正、昭和、そして平成の時代へと継承され4世紀以上にわたり多くのお客様をお迎えして参りました。

関東の奥座敷として繁栄し、平成のバブル経済期にその頂点を迎え、宿泊客数も平成3年度には173万人に達しました。近年の伊香保温泉の発展は、日本経済の成長と歩みを同じくし、時代の要請に添って参りました。

しかし、宿泊客の増加は、旅館の郊外移転と大型化に拍車をかける事になり「石段街の有る温泉地」として親しまれてきた地区の衰退を招きました。更に旅行に対する価値観の変化に象徴される団体から個の時代へと推移する中で、全国的な傾向にある観光客、宿泊客の減少による伊香保温泉全体の経済の縮小、地域社会を支える人口の減少に及んでいます。

また、昨年発生した温泉の不当表示は、温泉街の拡大、更に旅館の大型化に起因し、温泉地の生命線である湯量不足に大きな不安を招きました。

湯量の不足に対する根本的な問題解決は、伊香保温泉の命題であり、伊香保温泉を形成する環境整備、そしてサービスの提供は、変化し続ける時代への対応でもあります

伊香保温泉をオーケストラに例えるならば、演奏者は事業経営者と住民皆様であり、行政は、様々な場面において英知を傾け一体となった演奏の実現に努めなければならないと思います。それぞれが、日々に努力をしてこそ温泉地としての「らしさと雰囲気」醸し出し、お客様をお迎えできる環境を整えることができます。

この報告書は、伊香保温泉に欠けているもの、求められているものを真摯に受け止めるとともに誇れるものも謙虚に把握しました。

社会に必要とされる伊香保温泉であるために、また、脈々と受け継がれてきた財産を次の世代に継承すべく、今を生きる私達が何を成すべきかをこの報告書にまとめました。

様々な角度から検証し、行動、改革をする事、そして継続して努力する事を正確に認識して、町民皆様とともに実践する事を肝に命じるものです。

平成17年3月25日

伊香保町長職務代理者
伊香保町助役 村尾 隆 史

【 本編】

伊香保温泉再生に向けた目標と施策の方向

1章 伊香保温泉の現状と課題

(1) 伊香保温泉の特性

- ・伊香保温泉は、西暦 600 年前後に榛名山の二ツ岳が噴火し温泉の湧出が始まったとされ、古くから多くの文化人に愛され万葉集や古今集にも詠まれてきた歴史をもち、草津温泉、水上温泉、四万温泉とともに、全国的な知名度を有する群馬県を代表する温泉地である。
- ・また周辺に「県立伊香保森林公園」「榛名高原」など自然資源が豊かで、標高 700m 付近に位置するため避暑・保養に適した気候条件をもち、上州の山々が一望できる眺望の良さも魅力の一つである。
- ・現在の伊香保温泉の基礎が築かれたのは戦国時代末期（1576 年）で、シンボルとなる石段（旧温泉街）は、“日本初”ともいえる温泉リゾート都市として整備された温泉街の形成経緯や特徴的な景観など、他の温泉地、観光地に類のない存在となっている。
- ・温泉は、体が温まることから「子宝の湯」として多くの人に親しまれている歴史ある温泉『黄金の湯』と、新たに供給された『白銀の湯』の 2 つの温泉を有している。特に、斜面地をうまく活用して黄金の湯を引湯するシステムとして江戸時代に確立された「小間口制度」は、伊香保独自のものとして、現在にも受け継がれている。

(2) 伊香保温泉の現状と取り組むべき課題

宿泊客を中心とした集客力の回復

- ・宿泊客は、昭和 38 年度（50 万人）から平成 3 年度（173 万人）まで順調に客足を伸ばしてきたが、その後宿泊客の減少が続き、平成 15 年度は 126 万人まで落ち込みを見せている（ピーク時の平成 3 年度から 27% の減少）。
- ・一方、日帰り客は、宿泊客同様に平成 3 年度をピークに減少を見せているが、平成 11 年度以降はほぼ横這いの状況にあり、宿泊客利用の回復が課題となっている。

マーケット・ニーズの変化への対応

- ・高度成長期からバブル経済に至るまでの伊香保温泉は、新幹線や高速道路など高速交通網の整備の進展、県内外の団体客の増加などを追い風に、高崎・前橋をはじめとする北関東の奥座敷として発展を遂げてきたが、その一方で、民間における旅館の郊外移転や大型化が進展し、石段街（旧温泉街）の衰退を促す一因ともなってきた。
- ・その後、町主導により石段改修や各種観光ミュージアム整備の充実などが図られ、一時的には集客力の回復をみたものの、ハコモノ施設整備の一方で、マーケットの変化に対する認識が薄く、危機意識の上になった適切な対応が、個々の民間としても行政としても後手に回ってしまったことが、今日の伊香保温泉低迷の大きな要因であることを認識する必要がある。
- ・伊香保温泉の場合、高崎・前橋等からの団体宴会利用という近隣需要が現在でも存在することは大きな強みであるが、特にバブル経済崩壊以降より顕著となってきた「団体旅行」から「個人旅行」への市場変化、さらに熟年層（熟年夫婦、中高年グループ）、家族層などのライフステージや、旅行者個人の興味・価値観の多様化の中で、今後、伊香保温泉として受け止めていくべきマーケットの見極めとそれに対応した受け皿づくりが課題である。
- ・伊香保温泉には、規模・特色の異なる 57 軒もの宿泊施設が存在しており、旅行者ニーズが多様化している中で、観光地・温泉地としての伊香保温泉に限られたマーケットのみに限定することは難しい。個々の宿泊施設が受け止めるべきマーケットのニーズに対応した特色化・差別化を図りつつ、伊香保温泉全体として一定の品質を提供していくための取り組みが必要である。
- ・さらに、17 年度には渋川市等との広域市町村合併により、4 千人弱の町から 9 万人の市となる予定である。この「新市民」を最も身近で重要なマーケットとしてどう位置づけ、利用してもらうか、が重要である。

温泉の信頼性の回復

- ・平成 16 年に顕在化した「温泉表示問題」は、伊香保温泉の信頼性を大きく失墜させることとなった。温泉地再生には、あらためて個々の旅館だけでなく、温泉地全体として信頼性を回復するための努力が不可欠である。
- ・ただし、この問題の背景には、前述のような伊香保温泉特有の温泉供給のシステムにも関わる湯量の不足があり、湯量確保のための抜本的な対策が必要である。
- ・また同時に、湯量確保といった手段のみに走らず、これまでの温泉地としての発展の歴史の中で

失いつつあるもの、新たに創り出すものなどを見つけ出しながら、伊香保温泉が本来もつべき魅力を旅行者に伝えるための真摯な取り組みが求められている。

石段街のにぎわいの回復

- ・石段街（旧温泉街）は、他の温泉地同様、旅館の大型化（宿泊客の囲い込み）と旅行者の温泉地での滞留時間の短期化、温泉情緒の喪失、商店街の歩く魅力・買いたくなる魅力の喪失などが相まって、飲食店や土産品店等の廃業、商店街全体の活力の減退を促すこととなった。
- ・石段街は伊香保温泉のシンボルであり、旅行者の期待は大きいものの、衰退著しい現在の石段街に、失望を感じる来訪者も少なくなく、かえってマイナスイメージをも与えている。
- ・今後、石段街のにぎわいの回復は、伊香保温泉の再生に不可欠であり旅館や商店が個の利益追求の前に、共有財産である「石段街の活性化」にまちぐるみで取り組む姿勢が必要である。

温泉地らしい景観・環境づくり

- ・伊香保温泉は、石段街を核に適度なスケールの中で温泉街が形成されてきたが、旅行の大衆化、特に団体ツアーの増大とともに旅館の大型化・郊外移転化が進展し、無秩序なまちの拡大と不調和・不統一な町並み景観を生んでいる。この点については、旅館も個々には景観的な配慮や努力も見られるが、まち全体としては統一感に結びついていないのが実状である。
- ・既に、多くの海外旅行を経験し欧米の美しいまちを見てきた旅行者の、「本物」を見る目はより厳しくなっている。加えて、旅行者の日常的な生活空間である都市の環境も向上してきている。今後、このような目の肥えた都市からの旅行者に評価され支持される観光地であるためには、今まで以上に温泉地（まち）としての景観や環境を見直し、少しでも美しく良好な景観・環境づくりに取り組んでいく必要がある。
- ・また、温泉地としての知名度、名湯としてのイメージの良さがある反面、まち中で「温泉地らしさ」を感じられる場はほとんどなく、来訪者に物足りなさ、期待はずれの印象を持たれる要因ともなっている。物理的な温泉地らしさだけでなく、迎える観光関係者・住民も含めた温泉地らしさ、温泉情緒の創出が必要である。

本物のやさしさの感じられる「おもてなし」の具現化

- ・山の斜面に開かれた温泉地であるため坂道が多く、もともと高齢者や障害者にとってはハンディの多い温泉地であるが、安心して歩けない、ゆったりと休む場がない、わかりにくい、など、健常者にとっても必ずしもやさしい温泉地とはなりえていない。
- ・訪れる誰もが安心して伊香保での時間を過ごすことのできる滞在環境づくりを、施設・環境面と、人によるおもてなしの両面から具現化していく必要がある。

2章 伊香保温泉の今後の目標像

(1) これまでに描いてきた伊香保温泉の目標像

- ・伊香保温泉では、これまでに様々な組織・機関において、将来ビジョンや施策が検討・提案されており、その目標像に向けて取り組みが進められてきた。

【伊香保温泉の目指してきたこれまでの将来像】

- ・「いい香りの伊香保」(観光会議所・群馬県・伊香保町観光団体連絡協議会/1987年7月)
- ・「文化の香り豊かな温泉街「伊香保」(伊香保温泉観光協会/2000年3月)
- ・「あたたかな湯のまち伊香保」(広域関東圏産業活性化センター/2001年3月)
- ・「文化創出型観光地構想」
観光資源の保全と継承/歴史性の継承と展開/知的創造的活動の源泉
(伊香保温泉旅館協同組合/2002年12月)
- ・「ゆったりと、立ち止まれる時間が流れる伊香保温泉」
(伊香保温泉品質向上委員会/2003年8月)

- ・これらの目標像には、「文化」「湯」「あたたかさ」「香り」などのキーワードが共通している。各提言の中の具体的な内容をみると、伊香保温泉ならではの地域特性と魅力を引き出すことに配慮しながら、人づくり・組織づくり、市街地整備や美観、雰囲気づくりやイベントの仕掛け、地域マネジメント体制の構築、情報発信など多岐にわたる事業が盛り込まれている。
- ・こうした流れを受けて、伊香保町では第四次伊香保町総合計画(2003年4月)において、基本理念を「住み良い観光の町」、目標像を「住み良く、訪れる人に温かな、文化発信の町」として、これまで以上に観光振興に力を入れていく姿勢を示している。また、温泉を産業の根幹と位置づけ、その保護管理と利活用についても重点的に取り組むこととしている。

【第四次伊香保町総合計画の概要(2003年~2012年)】

基本理念：
「住み良い観光の町」

将来像：
「住み良く、訪れる人に温かな、文化発信の町」

観光産業：

観光推進

町内観光連携

町内の観光振興団体との連携を深め、観光振興の諸施策について情報を共有し、無駄な施策を減らし協働による施策を増やすため、施策ごとに検証・改善するための体制づくりに取り組みます。

また、町内の観光施設間の連携を深めるための取り組みを、併せて進めます。

広域観光連携

町外の観光振興団体との連携を強化し、広範な地域全体での集客対策を講じるための体制づくりへの取り組みを進めます。

観光資源

自然観光

伊香保町を訪れる人に喜んでもらえる、潤いのある自然景観を創出すべく、四季の自然の魅力を向上させるための取り組みを進めます。

また、自然を最大の保養の場と捉え、保養・休養環境を高めるための取り組みを併せて進めます。

文化・文学観光

これまでに投資してきた官民の観光施設並びに旅館、物産店等の質的な向上・充実をめざし、様々な文化・文学資源を活用改善し、魅力的な地区を創出するための町や住民の協働による取り組みを進めます。

また、温泉観光文化の内容の向上を図るための取り組みも、併せて進めます。

交流観光

交流拠点

首都圏に近い身近な温泉観光地であることをキャッチフレーズに、お得意様づくりを目的とした交流拠点の整備並びに充実に向けた取り組みを進めます。

また、伊香保町を1つのホテルと見立て、町内に3箇所のフロントとロビーを兼ねた交流拠点を整備し、かつその機能の充実を図ります。

情報発信

町内外で行われるイベントの情報や観光情報を含めた様々な情報を一元的に収集するための体制整備に向けた取り組みを進めます。

また、観光客のニーズを反映できる情報交流の場や機会を創出するとともに、集めた情報を発信するための取り組みを併せて進めます。

自然環境：

温泉と河川

温泉

・温泉保護管理

本町産業の根幹となる温泉の保護保全を目的に、町と権利者との協働による温泉維持管理に向けた取り組みを進めます。

・温泉の利活用

町と住民が一体となった温泉の総合的な利活用に向けた取り組みを進めます。

表 2-1 伊香保温泉のこれまでの将来ビジョンや施策に関する計画・提言の概要

項目	「伊香保会議報告書」 1987年7月	「伊香保セールスプロモーション計画書」2000年3月	「温泉観光地の活性化方策についての調査研究」2001年3月	「設立50周年記念誌」 2002年12月	「伊香保温泉サービス品質向上アクションプラン策定調査設報告書」 2003年8月
主体	観光会議所・群馬県・伊香保町観光団体連絡協議会	(社)伊香保温泉観光協会	(財)広域関東圏産業活性化センター	伊香保温泉旅館協同組合	伊香保温泉品質向上委員会(財団法人日本交通公社)
テーマ	いい香りの伊香保	文化の香り豊かな温泉街「伊香保」	あたたかな湯のまち伊香保	文化創出型観光地構想	ゆったりと、立ち止まれる時間が流れる伊香保温泉 ～人と心を通わせ、歴史に目を向け、自然に耳を澄ます～
組織づくり・人づくり	<ul style="list-style-type: none"> 観光大学の設置等によるサービス産業の人づくり 各団体が協力し、ボランティアガイドを組織化 人づくり(郷土を知る青少年の育成・伊香保ファン) 町と県、地域住民との協力体制不可欠 伊香保周辺との協力、調整、統合が必要 地区・業界のボランティアによる朝の散歩の会 	<ul style="list-style-type: none"> 伊香保ブランドのイメージ普及戦略 企画テーマ「温泉と文化・文学の香り」 事業運営体制づくりとして：日本文化大学開講 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の高齢者や小学生による個人客への絵ハガキ作成 マンション販売会社との提携 ロープウェイ頂上駅周辺の景観的配慮 横丁への賑わい空間の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> 複合的まちづくり(人材育成、新しい芸術文化創出、発表する場) ジャーナリスト育成(伊香保発の芸術を内外に発信) 若手を中心とした芸術家の育成・集積 芸術が地元へ根付く基盤づくり(町民・企業の活動への補助など) 人材活用と創作料理の開発 まちづくりとの連携 食文化の発信 	<ul style="list-style-type: none"> 町全体でホスピタリティの質を高める 伊香保温泉品質向上委員会を伊香保のシンクタンクにする 各種体験インストラクター、観光ガイドの養成 観光産業従事者を対象とした勉強会の実施(英語対応) 対応マニュアルの作成(英語対応)
市街地整備と美観	<ul style="list-style-type: none"> 都市型社会との雰囲気の違いをアピール 石段の活用...長期滞在型に移行すること前提に、長期の石段街整備、活用プラン作成 石段をお祭り・イベント広場として利用・継続性を果たせることが肝要。(そのため若手のリーダーが必要) 町中にミニ文学館(自然関係の文学者の資料を集め、碑を作る・文学コーナーを作るなどによる) 街の中にたのしさ(室内スポーツ施設) 足の弱い人にも歩ける森林公園 榛名湖周辺の再開発 	<ul style="list-style-type: none"> 石段街の開発 商店街活性化対策 町全体の整備・活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ロープウェイ頂上駅周辺の景観的配慮 源泉部の魅力拡大 神社の性格付け 源泉部と神社間の通路の活性化 横丁への賑わい空間の拡大 交通計画、歩行動線計画の充実 町内周遊ルートの設置 優れた景観への誘導 官・業・民の連携による推進体制 石段街の歩道 下りルートの推奨 博物館・美術館群の整備 ナイトアミューズメント施設の導入 公園・庭園・歩道の整備 	<ul style="list-style-type: none"> 既存の樹木の保護と整備(見る、見られるという観点からの保護と整備) 芸術街区の整備 芸術文化発信拠点設置 	<ul style="list-style-type: none"> 石段街などの温泉街だけでなく、各地区の魅力に光を当て、町全体として魅力を高める 「モダンで洗練された"日本のな"温泉地」としての整備 機能的・和風なハード整備 和風サービスの英語での提供 小さな賑わいをたくさんつくる 眺望の良い露天風呂の整備 作ったハードに愛着を持ち、利用する 湯めぐり(「展望風呂」等)の推奨 石段街の下りルート、横町歩きの推奨 交通計画、歩行動線計画の充実 ロープウェイ頂上駅周辺の整備 県立伊香保自然公園の散策路の整備(案内板設置等)
雰囲気づくり・イベント	<ul style="list-style-type: none"> 自然湧出の源泉を演出して魅せる場所にする ライトアップ作戦 キャッチフレーズ「いい香りの伊香保」の利用、花の香りの利用 すでにあるものを核に付帯的なイベントを付加 和風高級旅館化(滞在型には貸別荘で対応) 2泊を前提とした旅館の売り込み(歩いてたのしい温泉地の演出の達成) 各旅館に立ち寄り名所めぐりのガイド付バスサービス 	<ul style="list-style-type: none"> 石段街リフレッシュキャンペーン 1.観光客が石段街を回遊する仕組みづくり 2.全体または地区ごとの観光を楽しむ仕組みづくり 3.伊香保観光標準の設定(ITS "Ikahe Tourism Standard") <p>[ミニイベントの展開案]</p> <p>テーマ「伊香保で味わう日本文化の一年」(きれいで・かわいらしく・目で理解できる・香り・現代的演出で昔の素材提供)4月～翌年3月「春祭り」/「八十八夜と自然の甘味」/「伊香保名物旅館」/「日本の夏 涼の知恵」/「文化の祭典」/「染め柄を選ぶ」/「日本式ハロウィンと和紙」/「芸者の美の世界」/「うまいチーズと海苔を採る」/「門前に旨いものあり」/「女性向け温泉のすすめ」/「貝原益軒に学ぶ」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 迷路を創る まち全体の緑化の推進 	<ul style="list-style-type: none"> まちの公園化 複数美術館の連携による、文化啓蒙プログラムの充実 歴史、ステータスの維持 メインストリートの上下をつなぐ(人のながれに配慮したまちづくり) 温泉の利用方法の拡大(医療補助としての活用、PR) 	<ul style="list-style-type: none"> イベントリンク(小さなイベントをリンクさせる。いつでもどこかが賑わっている伊香保温泉を目指す)。 景観コンテスト、石段街への活気創出のためのアートイベントの実施 旅館相互でのロビー休憩制度の発足・農家と都市とを結ぶ「産直・交流会」 伊香保の工芸体験、地元農産物を使った料理の会の開催 住民による音楽・舞踏の発表会 等 まち全体の緑化の推進 公園・庭園・緑道の整備 温泉情緒の演出(足湯の整備等) 優れた景観への誘導
地域マネジメント体制構築	<ul style="list-style-type: none"> 時代への対応(コンベンション構想への対応) 道路行政、横丁のネーミング、コース設定への配慮必要 自動車の通行規制、循環バスの運行 博物館等の休館日を入れ込みの少ない時期にする又は休館日を分散化 	<ul style="list-style-type: none"> フォローマーケティング ...アンケート調査、集計分析 新規マーケット開発、新規顧客開拓・維持 ハード整備との整合性・個店魅力アップ支援 節目としての会場イベント ...「日本文化・ベン会議」(ベン文化イベント) 伊香保からの情報発信により、地域の文化、経済振興、人材育成を推進 	<ul style="list-style-type: none"> 顧客データ収集 旅館相互でのロビー休憩制度の発足 共同宿泊プラン ハード施設の共同設置、運営 公設の手荷物預かり所(宿泊者無料)を作る...テプラサービス 旅館の地元食材の共同購入の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 芸術支援関連予算等公的補助の充実 温泉の保護 	<ul style="list-style-type: none"> 観光産業に携わっている人も一般住民も、同じ伊香保に暮らす者として、心地良いまちづくりのために共に行動する まちなか散策、路地裏探索会の実施 顧客データの収集・一元管理
情報	<ul style="list-style-type: none"> 映像の時代にむけたPR、情報の提供 季節、1日の中で最も良い時をお客様に知らせ、過ごしてもらおう 距離感の分かるより正確なイラストマップの作成 町民の目から見所を公募した手作りガイドマップ作成 	<ul style="list-style-type: none"> 時代への対応(コンベンション構想への対応) 道路行政、横丁のネーミング、コース設定への配慮必要 自動車の通行規制、循環バスの運行 博物館等の休館日を入れ込みの少ない時期にする又は休館日を分散化 		<ul style="list-style-type: none"> 芸術文化の拠点としての発信 情報内容の拡充(町・住民・旅館の魅力が増していく情報発信) 伊香保全体のインフラ整備、新鮮な情報の積極的発信 温泉の活用(各施設2種類以上の温泉の提供が理想) 情報内容の拡充(町・住民・旅館の魅力が増していくような情報発信) 	<ul style="list-style-type: none"> 「伊香保の豆手帳」の作成 歴史・文化、避暑地イメージのPR 温泉のPR(2種類、効能) キャッチコピー、ロゴマークの作成等 首都圏への積極的PR

(2) 伊香保温泉の再生に向けた今後の目標像の設定

- ・以上、みてきたように、伊香保温泉においては既に行政、民間の様々な組織・機関で目標像が構築されてきており、目指している方向性に大きなズレはない。
- ・ここでは、これら目標像が大切にしてきた理念を認識した上で、今後、官民が協働して伊香保温泉の再生に向けて取り組みを進めていくために共有化すべき目標像をあらためて次のように設定する。

【伊香保温泉の目標像】

人々に愛され続ける石段の温泉まち

伊香保温泉は、420 有余年の長きにわたり、石段とともに歴史を積み重ね、多彩な文人墨客をはじめ多くの旅行者(お客様)に支持され発展してきた。しかしながら、現在の伊香保温泉は、旅行の大衆化を背景に急速な発展・成長を遂げた一方で、変わりつつある人々の価値観やライフスタイル、旅行に求めるものを正面から受け止めることなく今日を迎え、次第にお客様の信頼と温泉まちとしての輝きを失いかけてしまっている。

これからの伊香保温泉は、このような危機意識の上にならなくて、360 段の石段に刻まれた歴史をあらためてふりかえり、まちのもつ資源、伝統文化などの大切さを再認識する必要がある。同時に、お客様を愛そうとする気持ちを、観光関係者、地域住民が共有化し、それを「おもてなし」として施設・環境、サービス等のあらゆる面で具現化することによって、人々に愛され続ける温泉まちにしなければならない。そうした目標像を掲げ、新しい時代においてもお客様の心を捉えていくことのできる魅力あふれる温泉まちを目指していく。

- ・さらに目標像の具体的なイメージは、以下のような方向性で捉え、目標像の構造は下図のようになる。

温泉の魅力を総合的に感じられる温泉まち < 温泉地の保証 >

- ・黄金の湯、白銀の湯の2つの温泉の魅力にふれられる温泉まち
- ・旅館やまちなか、自然など、様々な場や環境の中で、温泉地らしさ(温泉情緒)を感じたり、多様な温泉の楽しみ方や温泉文化にふれることのできる温泉まち

魅力ある空間・環境・雰囲気をもったやすらぎの感じられる温泉まち

< 環境の保証 >

- ・心身のやすらぎやリフレッシュを求めて都会から訪れる旅行者に、伊香保ならではの雰囲気や環境、眺望などの魅力を活かして、都市では味わえない時間や場を提供できる温泉まち
- ・豊かな自然と調和し、日常生活空間よりも質の高い景観や美しい環境を備え、都市にはない「非

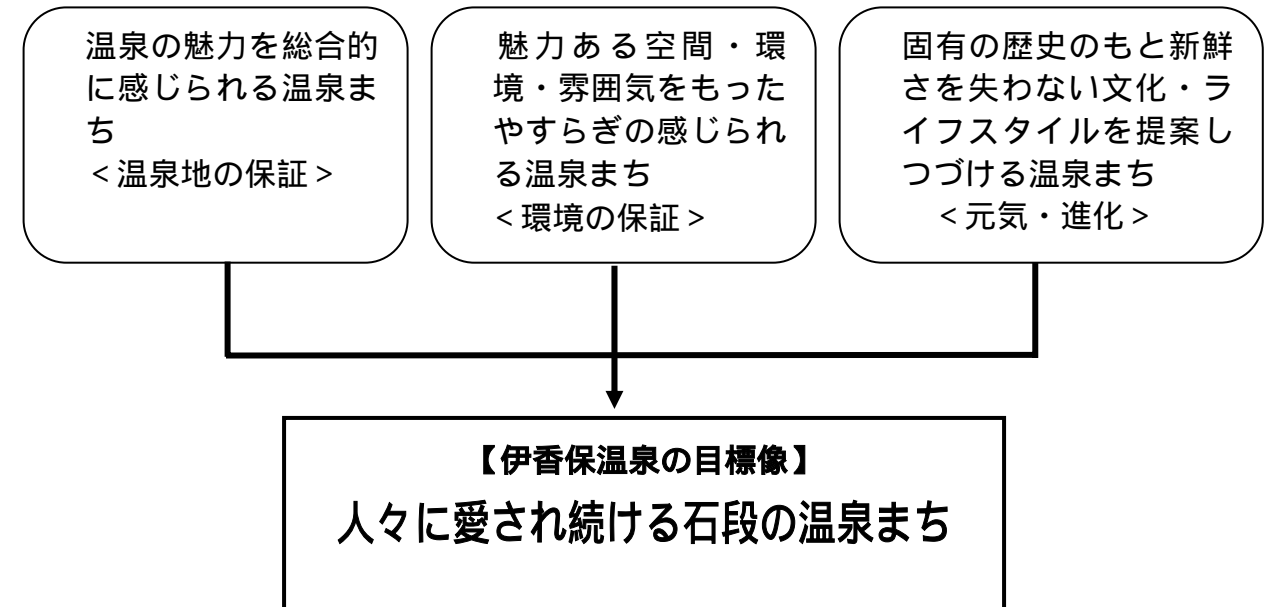
日常性」をもった温泉まち

- ・住民ひとりひとりが、都市の人を惹きつける温泉地に生活していることを誇りとし、まちの良さを磨き上げ、そうした暮らし方・生き方の中から、温泉地としての奥深い魅力が伝えられる温泉まち

固有の歴史のもとに新鮮さを失わない文化・ライフスタイルを提案しつづける温泉まち < 元気・進化 >

- ・個人の興味・ニーズ・旅行スタイルの多様化に柔軟に対応し、一歩進んだサービスやおもてなしを提供できる温泉まち
- ・伊香保のもつ資源や歴史性を継承しつつ、芸術や食など、新しい文化を創造し発信することで、次の時代のライフスタイルを求める層に魅力を感じてもらえる温泉まち

< 伊香保温泉再生に向けた目標像の構造 >



3章 伊香保温泉の真の再生に向けて

- ・前述したように、伊香保温泉においては、行政、民間それぞれに再生に向けた様々な取り組みを進めてきた。しかしながら、現状を見る限り、客観的に評価を得るだけの効果に結びついていない。「伊香保温泉を少しでも良くしたい」「多くの人に来てもらいたい」という気持ちは、少なからず関係者の誰もがもっているにもかかわらず、その足並みが揃わないために効果に結びついていないことが、伊香保温泉の再生を図る上での壁であり、乗り越えるべき本質的な課題といえる。
- ・このような意味で、今後の伊香保温泉の「再生」への取り組みにあたっては、空間や環境など温泉地・まちとしての再生だけでなく、望ましい目標の実現に向けた関係者・地域住民の意識の共有化と取り組み方の再構築（気持ちと体制の再生）がまず必要であることを認識する。

(1) 伊香保温泉のすべての人が、まちをあげてお客様をあたたく迎え入れる気持ちを共有化する

- ・観光に関わる事業者は、経営者の論理ではなく、消費者の視点にたったおもてなしの具現化という、観光地・温泉地としての原点に立ち返り、利用者の声を真摯に受け止め施設や環境・サービスの充実に努力する。
- ・住民もまた、温泉地という観光産業を基幹にしたまちに生活していることを理解し、温泉地の魅力を支えるホストの一人として、まちの魅力を高め来訪者をあたたく迎えることに協力する。
- ・このような来訪者を迎え入れる気持ちを個人のレベルから組織・まちのレベルで具現化し、魅力ある温泉地を目指して「気持ちの立て直し」をする。

(2) 互いに信頼できる関係を築き、まちをあげて取り組む体制をつくる

- ・これまでの伊香保温泉は、行政と民間、観光事業者間、地域住民との関係など、観光事業に取り組む上での連携が必ずしも十分とはいえず、このことが相互の取り組みに対する信頼感や協力体制をも損なう要因になっていることは否定できない。
- ・今後の伊香保温泉の再生にあたっては、このようなこれまでの観光施策・事業への取り組み方を見直し、透明性、信頼性の高い取り組みの進め方を構築する。

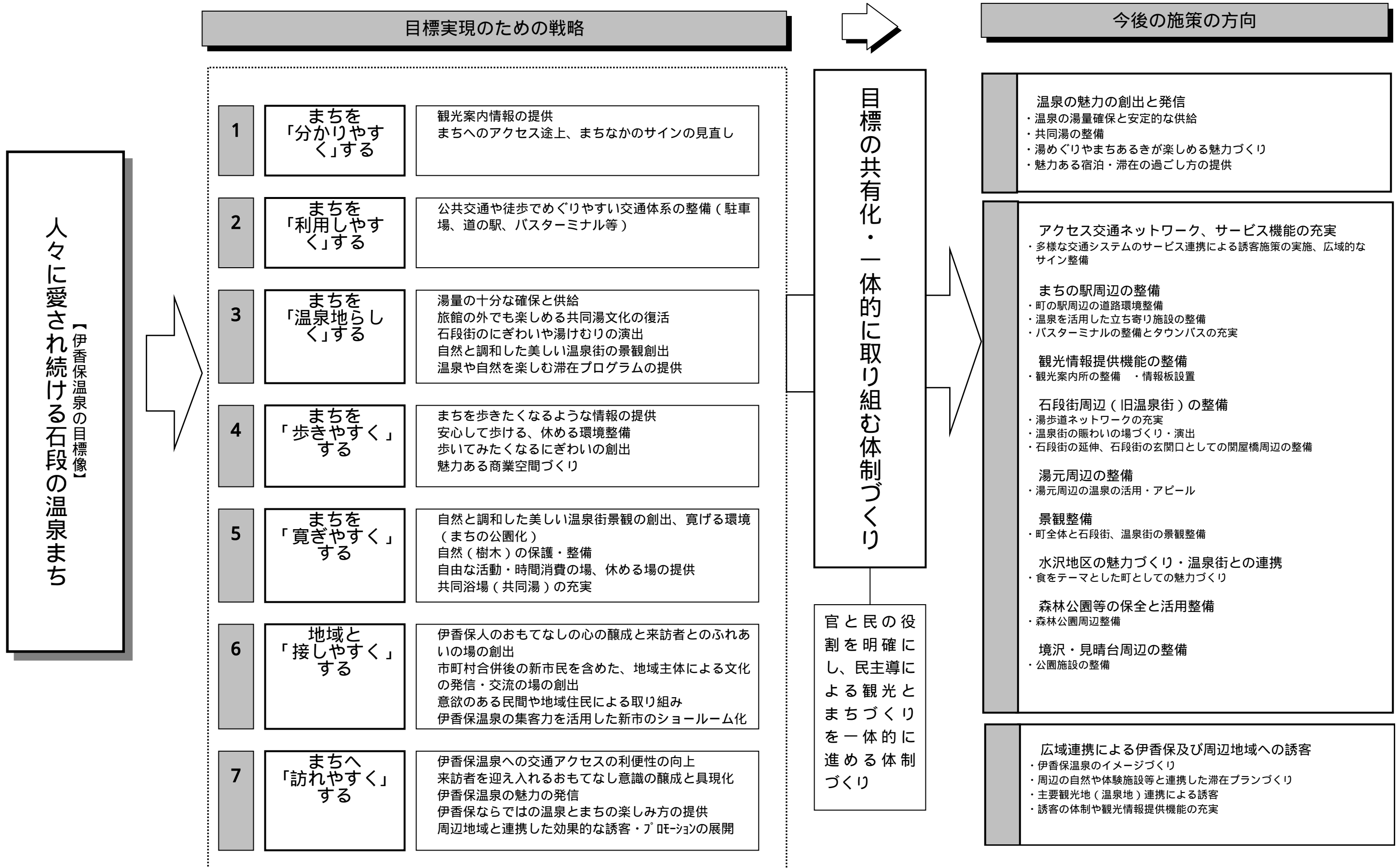
他人まかせにせず、皆がそれぞれの役割を認識し、できることから実践する
他の取り組みを応援する
関係者が互いに問題を指摘しあえる関係をつくる
悪いところは素直に見直す
官民が協働で施策を検討し、関係者の合意形成を図りながら事業を進める

(3) 知恵と工夫で、大切な資源を宝に変えて有効に活かす

- ・ハコモノ施策から脱却できない観光地・温泉地は、今後、旅行者から継続的に評価され続けることは難しい。今後は、知恵と工夫でできることから施設の魅力づくり・環境づくりに取り組み、施設整備においては、長い目で持続的に事業が継続できる施設づくりを進める。
- ・また、伊香保温泉におけるこれまでの観光施策は、えてして行政や一部民間の思いつきで実施される場合が少なくなく、民間事業者や住民の意向が反映されにくい一面があったことは否定できない。今後の施策への取り組みにあたっては、このような旧態依然とした進め方を見直し、目標とそれに向けた計画（マスタープラン）を関係者共有のものにしながら、効果的にソフトとハードを連携させながら事業の具体化に取り組む。

4章 伊香保温泉再生に向けた施策の方向

・伊香保温泉再生の目標像の実現に向けた今後の基本的な戦略と施策を体系的に示す。



今後の施策の方向



具体的な施策（案）

- 温泉の魅力の創出と発信
- ・温泉の湯量確保と安定的な供給
 - ・共同湯の整備
 - ・湯めぐりやまちあるきを楽しめる魅力づくり
 - ・魅力ある宿泊・滞在の過ごし方の提供

- アクセス交通ネットワーク、サービス機能の充実
- ・多様な交通システムのサービス連携による誘客施策の実施、広域的なサイン整備

- まちの駅周辺の整備
- ・町の駅周辺の道路環境整備
 - ・温泉を活用した立ち寄り施設の整備
 - ・バスターミナルの整備とタウンバスの充実

- 観光情報提供機能の整備
- ・観光案内所の整備 ・情報板設置

- 石段街周辺（旧温泉街）の整備
- ・湯歩道ネットワークの充実
 - ・温泉街の賑わいの場づくり・演出
 - ・石段街の延伸、石段街の玄関口としての関屋橋周辺の整備

- 湯元周辺の整備
- ・湯元周辺の温泉の活用・アピール

- 景観整備
- ・町全体と石段街、温泉街の景観整備

- 水沢地区の魅力づくり・温泉街との連携
- ・食をテーマとした町としての魅力づくり

- 森林公園等の保全と活用整備
- ・森林公園周辺整備

- 境沢・見晴台周辺の整備
- ・公園施設の整備

- 広域連携による伊香保及び周辺地域への誘客
- ・伊香保温泉のイメージづくり
 - ・周辺の自然や体験施設等と連携した滞在プランづくり
 - ・主要観光地（温泉地）連携による誘客
 - ・誘客の体制や観光情報提供機能の充実

- 温泉に関する利用者及び旅館経営者の意識・ニーズの把握調査の実施、及び温泉の魅力創出と発信手法の検討による伊香保温泉の魅力発信事業の実施
- 温泉の湯量確保と安定的な供給のための調査検討と事業実施

- アクセス交通ネットワーク整備検討と実施
- ・パークアンドライド調査の実施・多様な交通システムの連携による誘客施策の実施・広域サイン計画の策定・広域的なサインの整備

- まちの駅周辺整備の検討と実施
- ・山ノ手線街路（不如帰橋）整備 ・雷之塚神社線（物聞橋）整備 ・八幡坂駐車場整備
 - ・伊香保温泉本館整備 ・バスターミナル広場施設整備 ・八千代温泉広場施設整備 ・群馬大学研修所周辺の整備方向の検討

- 観光情報提供機能の整備検討
- ・簡易観光案内所整備事業の検討と設置の実施 ・情報板設置事業の検討と実施 ・観光案内所の整備 ・情報板設置

- 石段街周辺の整備検討と実施
- ・石段街駐車場整備 ・蘆花記念文学館改修整備 ・関所改修整備 ・石段の湯改修整備 ・緑化施設等整備 ・石段街神社下広場施設整備
 - ・石段街横丁広場施設整備 ・湯の香温泉広場施設整備 ・道の駅施設整備 ・関屋橋香温泉広場施設整備 ・一文字展望広場施設整備
 - ・役場前広場施設整備 ・観山荘周辺の整備方向の検討

- 湯元周辺の整備の検討と実施
- ・温泉引湯、貯湯施設 ・湯元温泉公園施設整備 ・温泉引湯文化施設整備

- 水沢地区の門前街としての魅力づくり
- ・門前街景観の整備 ・歩行者に配慮した道づくり ・温泉街と水沢地区をつなぐ交通アクセスの魅力づけ

- 景観整備事業の実施
- ・神社見晴線道路 ・香湯神社線道路 ・八千代橋赤土線道路 ・関屋橋香湯支線3号道路 ・物聞橋香湯線道路 ・香湯神社線支線2号道路
 - ・物聞橋香湯支線4号道路 ・雷之塚神社支線2号道路 ・石段街の伊香保神社参道化

- 伊香保町景観ガイドラインの作成
- ・中心市街地の景観デザイン指針の検討 ・景観条例（まちづくり条例）の検討

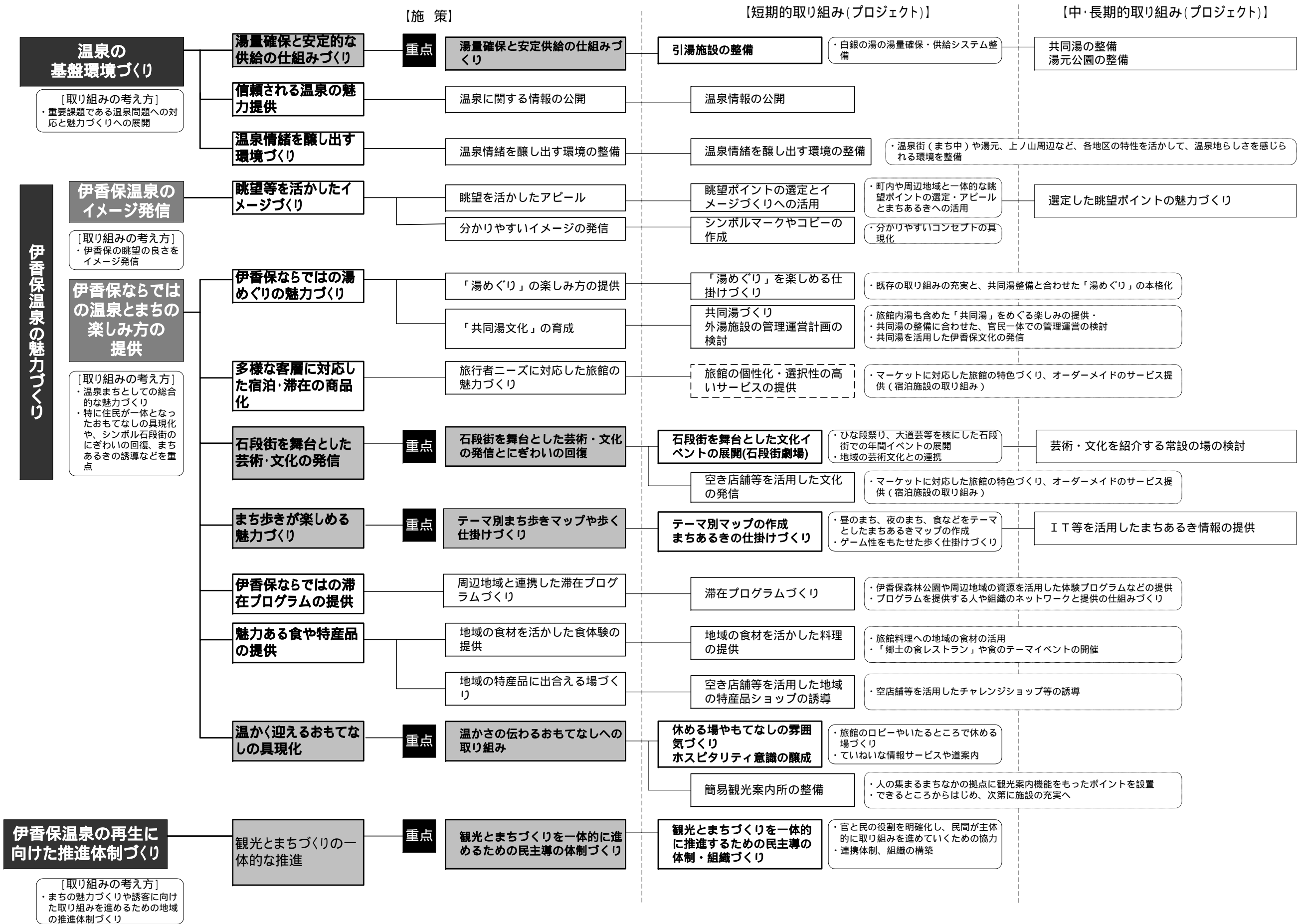
- 群馬県環境森林局等との連携による、伊香保森林公園地区の整備方向の検討
- ・上ノ山公園周辺整備の実施（・温泉加温、貯湯施設・見晴温泉広場施設）

- 境沢・見晴台周辺の整備の検討と実施
- ・景観遊歩道の整備 ・境沢温泉広場施設 ・温泉街バイパス整備 ・ビジターセンター前三車線化延伸整備 ・温泉街駐車場の整備方向の検討

- 周辺観光地との連携による広域観光利用誘導策の検討と広域連携商品の開発
- 周辺地区との連携による伊香保温泉での宿泊・滞在拠点化方策の検討と、伊香保温泉を拠点とする滞在活動プログラムの開発

【 . 温泉地再生編】
伊香保温泉の魅力創出に向けた方策

・伊香保温泉の魅力創出に向け、以下の方策に取り組む。



1章．温泉の基盤・環境づくり

【施策のねらい】

- ・420 有余年の歴史を誇る伊香保温泉であるが、湯量の確保は長年の課題となってきた。平成 16 年に顕在化した温泉の不当表示問題の背景ともいえるこの基本課題に対し、官民をあげて抜本的な対応策に取り組む。
- ・また、これらの解決に取り組みながら、伊香保温泉の信頼性の回復と、新たな魅力への展開を図る。

(1) 湯量確保と安定的な供給の仕組みづくり 【重点】

【取り組みの方針】

- ・官民協働により、「黄金の湯」とともに、「白銀の湯」の湯量を確保し、町内に広く配湯することで、利用者に十分に温泉そのものを楽しんでもらえる環境の整備を行う。
- ・温泉の湯量確保は、旅館内湯や外湯としてなど、新たな魅力創出に活用してもらうと共に、表示問題で失墜した利用者の信頼を取り戻すことに寄与する。

湯量確保と安定供給の仕組みづくり

【重点】

【短期的な取り組み】

引湯施設の整備 【重点】

- 「白銀の湯」湯量確保・供給システムの整備
- ・湯元地区より温泉源を引湯することによって湯量を確保し、低温温泉については加温し、伊香保温泉文化である引湯文化を復興し、湯けむりなどの温泉情緒を創出する。
- ・湯元地区で確保した温泉源を公共温泉施設に供給するとともに、民間温泉施設についても供給し、温泉地としての温泉供給を保証する。
 - 温泉源引湯施設整備・温泉引湯貯湯施設整備
 - 温泉加温施設整備・温泉加温貯湯施設整備・温泉加温施設往復配管施設整備
 - 引湯文化施設整備・温泉加温貯湯施設整備・引湯施設配管施設整備

【中・長期的な取り組み】

共同湯の整備

- ・引湯施設・供給システムの整備によって、まちなかの各地点に共同湯（外湯）を整備し、多様な外湯の楽しみ方ができるようにする。
- ・共同湯は、設置する場所の特性等によって、利用者のニーズに応じて多様な楽しみ方ができる施設をつくる。

湯元公園の整備

- ・湯元温泉周辺の環境整備を行う。

(2) 信頼される温泉の魅力提供

【取り組みの方針】

- ・温泉に関する情報を広く公開し、消費者の信頼を回復する。
- ・泉質にとどまらない伊香保温泉の多様な魅力を情報として発信する。

温泉に関する情報の公開

【短期的な取り組み】

温泉情報の公開

- 伊香保町温泉表示に対する対策本部の設置・対応策の検討
- ・対策本部での調査・検討に基づき、以下のような方針・方法を設定し、官民一体となって伊香保温泉の信頼回復に向けた取り組みを進めることとした。

< 温泉表示対策の方針 >

1. 行政の責任と対策
2. 観光協会・旅館協同組合の責任と対策
3. 旅館個々の責任と対策
4. 共通の責任と対策

< 伊香保温泉表示方法 >

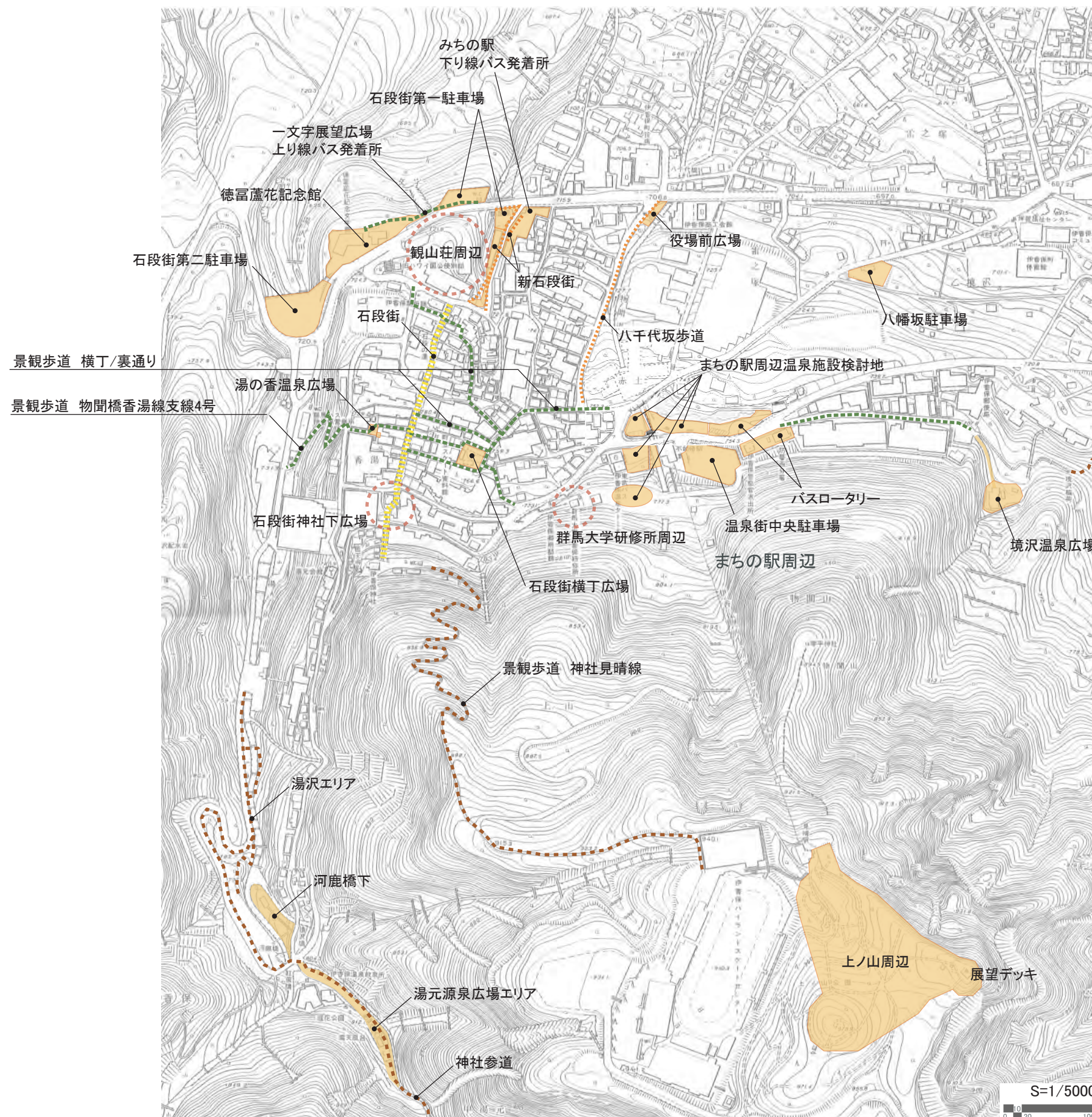
1. 旅館別表記
 - (1)温泉旅館 伊香保温泉内における天然温泉引湯旅館を称する。
 - (2)観光旅館 伊香保温泉内における天然温泉引湯旅館以外を称する。
2. 浴室浴槽別表記
 - (1)温泉・水など表記
 - (2)加水の有無
 - (3)加温の有無
 - (4)給湯方法
 - (5)入浴剤の有無
 - (6)湯の入替清掃頻度
 - (7)湯の殺菌処理方法

(3) 温泉情緒を醸し出す環境づくり







- ・温泉地に求められる温泉情緒とは、日本各地にあった日本人の心が失いつつある大切なもの、和の世界への郷愁などであり、お客様はそれを求めて温泉地に訪れてきた。
- ・その思いに答えるため、官民が伊香保温泉情緒を醸し出すという目的を共有化し、それぞれの知恵や工夫を発揮できる場を各試案例と共に示す。

県道レベル周辺エリア
 境沢温泉広場周辺
 町の駅周辺エリア
 景観歩道 やまの系
 景観歩道 まちの系
 上ノ山周辺
 湯元一湯沢エリア

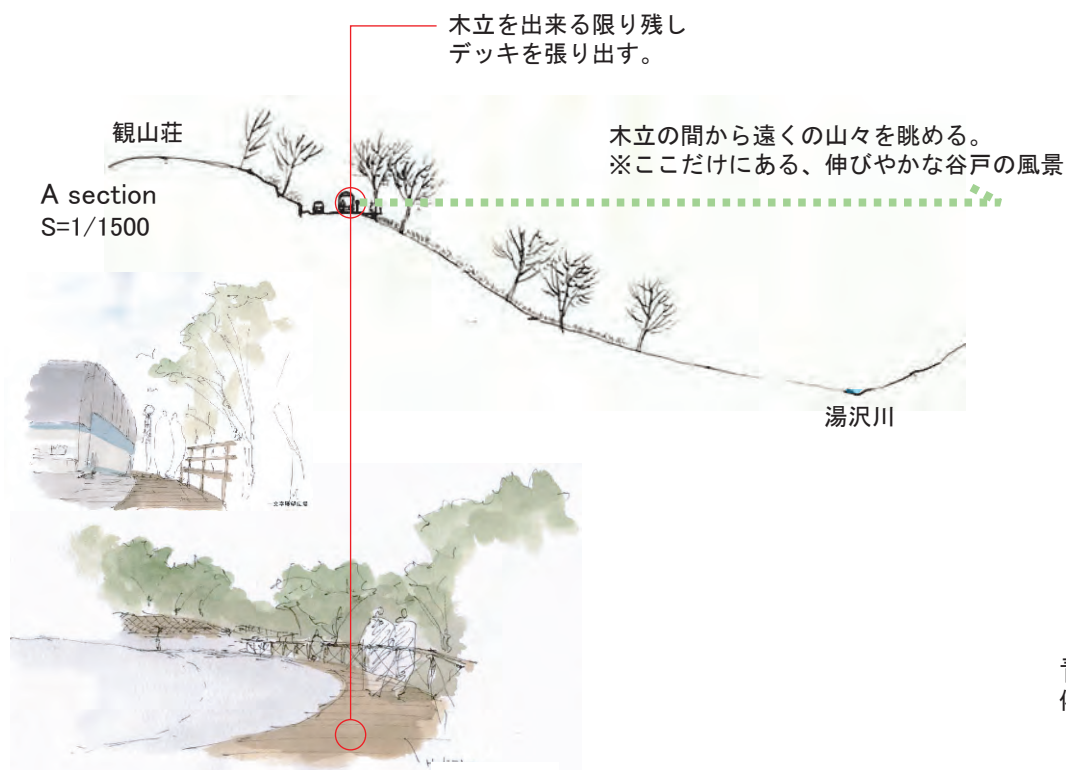
〈再生計画位置図〉



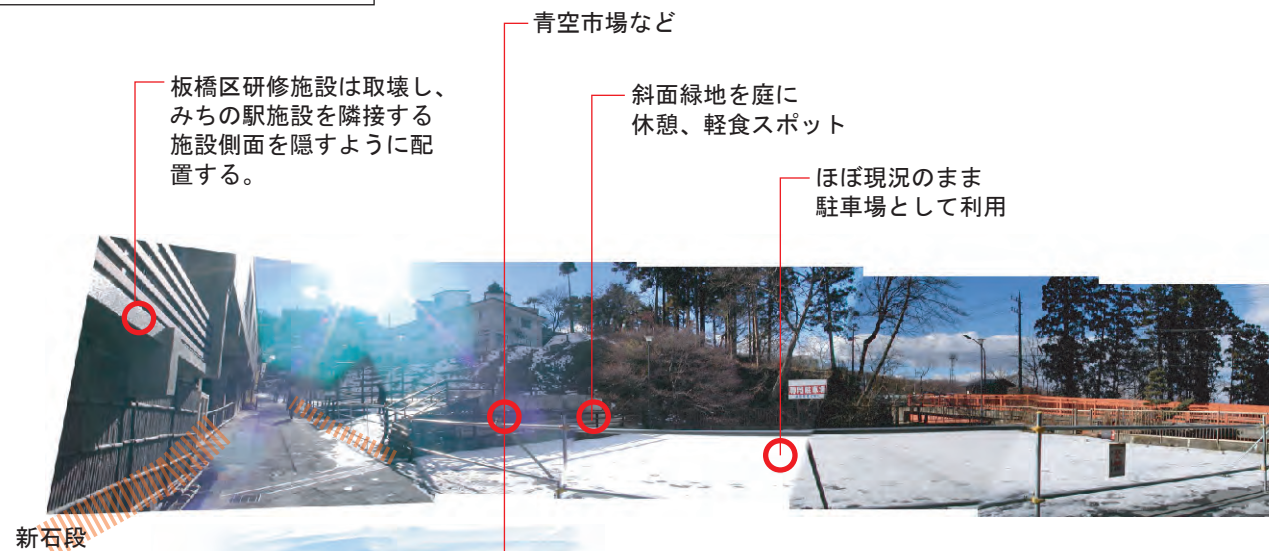
- ・温泉街バイパス整備
- ・ビジターセンター前三車線化延伸整備
- ・温泉街駐車場の整備方向の検討

-  整備方向検討地
-  計画検討地
-  景観歩道整備(まちの系横方向)
-  景観歩道整備(まちの系縦方向)
-  景観歩道整備(石段街)
-  景観歩道整備(やまの系)

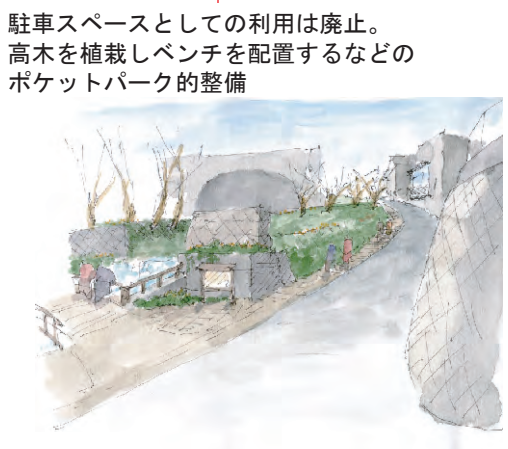
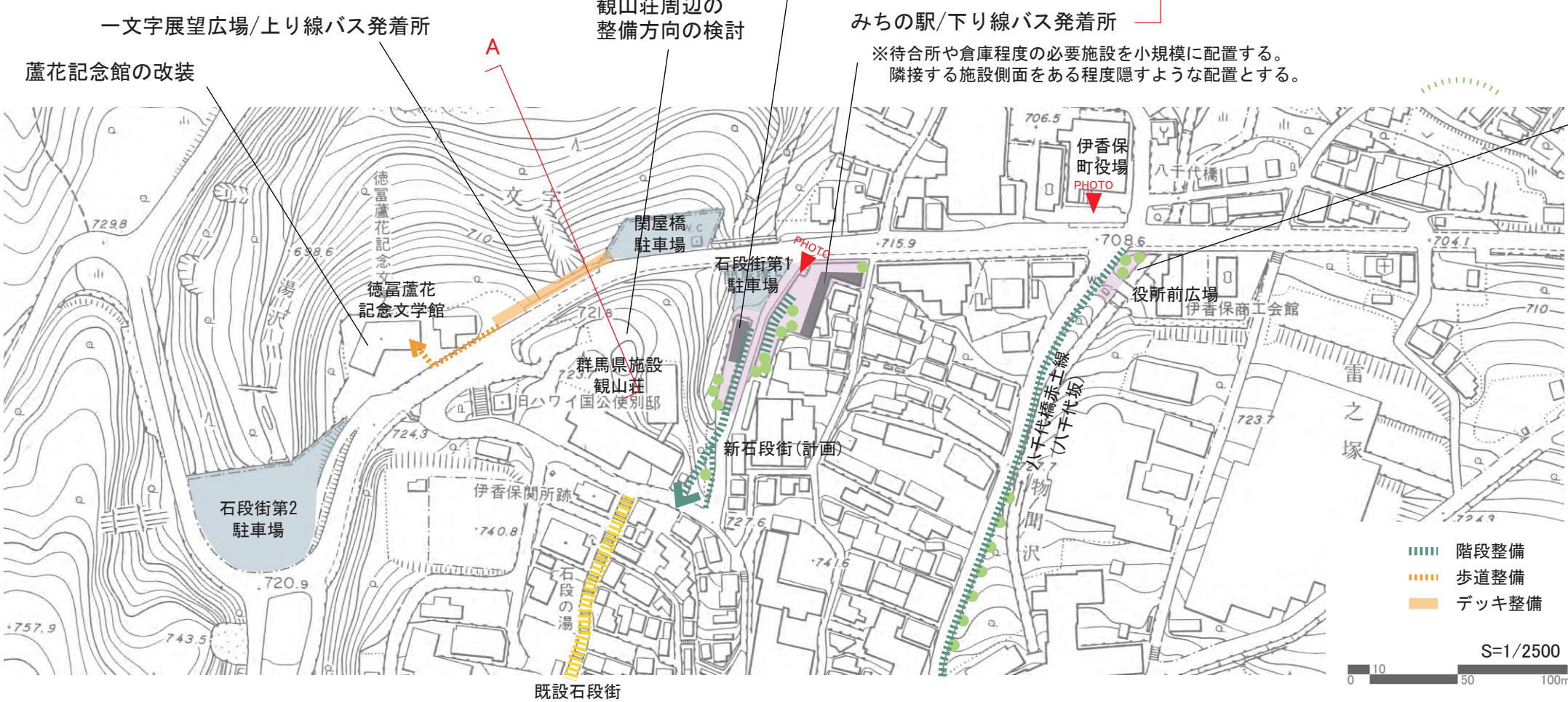
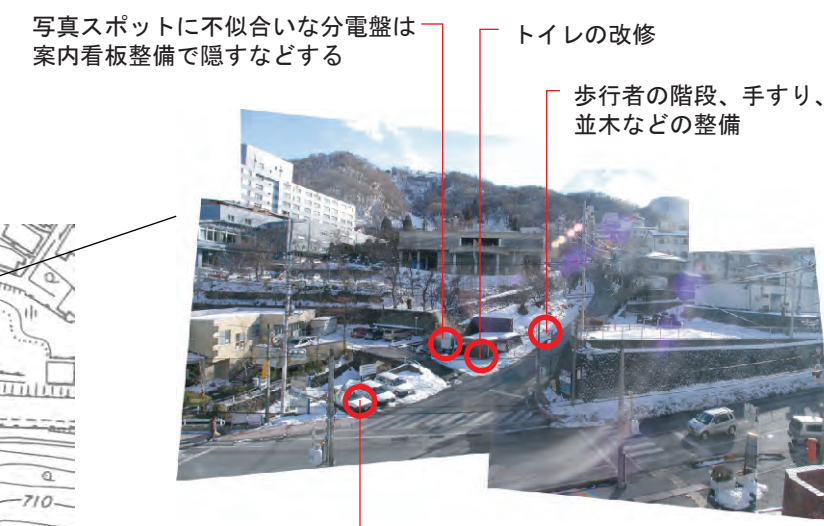
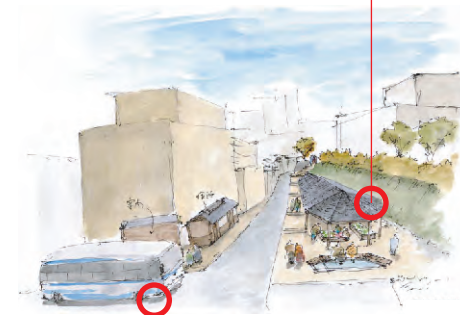
一文字展望広場整備 (試案例)



みちの駅周辺整備 (試案例)



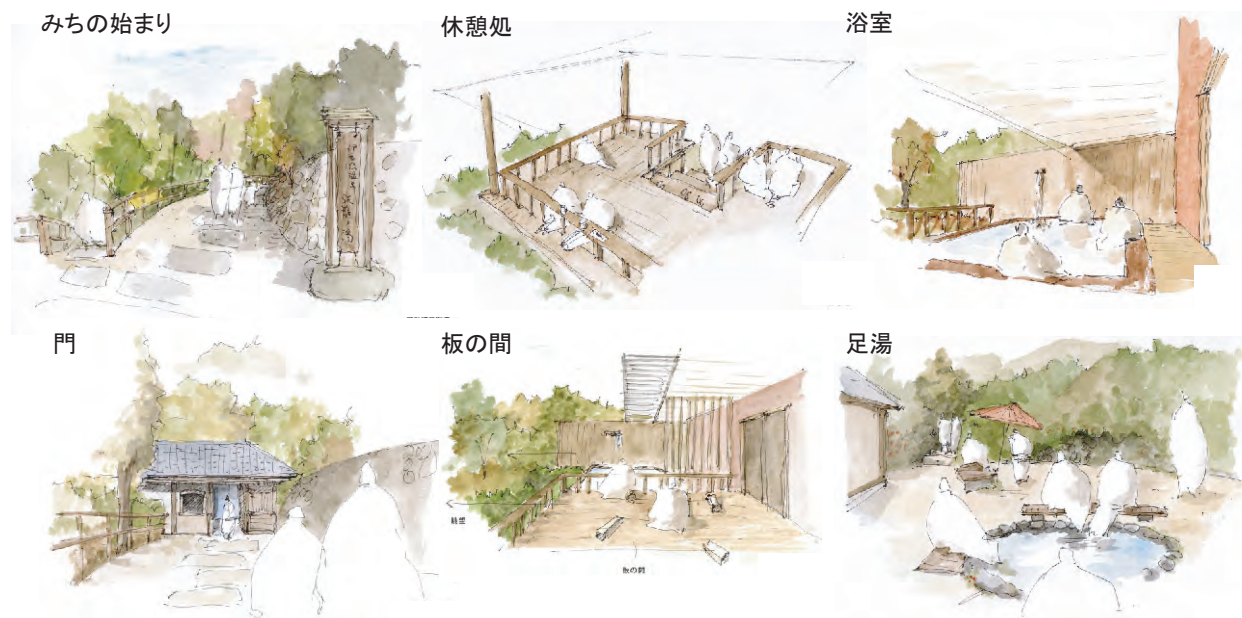
役所前広場～八千代坂整備 (試案例)



境沢温泉広場 ‘旅籠の湯’ 試案例

コンセプト:

- ・北斜面の谷地形といった立地に、陽があまり差さない深い淡緑色の斜面林。伊香保ならではの、ともいえる。静けさ、深さ、侘び寂び。・・・読書か、瞑想か。
- ・自然に包まれた温泉浴が楽しめるよう、脱衣小屋に半屋外浴槽といった程度の施設整備。
- 浴槽は最小限、休憩スペースは最大限(緑地を含め)。



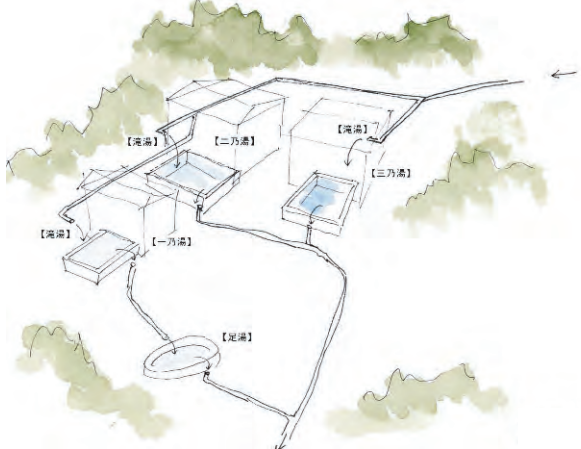
道路・駐車場整備

- ・温泉街バイパス整備
- ・ビジターセンター前三車線化延伸整備
- ・温泉街駐車場の整備方向の検討

イメージ鳥瞰図



設備ルートコンセプト図



雰囲気のある歩行空間の整備

- ・境沢稲荷参道として位置づけてもよい
- ・一部石敷き舗装で奥へ導く
- ・エントランスの雰囲気作り
- ・温かい明かりの整備
- など再整備が検討されてもよい。

境沢温泉広場 ‘旅籠の湯’

背後の大きな擁壁
 ある程度埋めて自然の形に戻す(近づける)
 などの造成・植栽が必要であろう。

赤城山を眺める散策ルート
 (既設)

バス通りへ向かう
 散策路整備

